

出題分析			
試験時間	90 分	配点	150 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 4 題のうち、前半 2 題はマーク式で設問個数は 40 個、後半 2 題は今年度から初めて導入された論述問題となった。大問 I は語群付き空欄補充問題が中心だが、大問 II はその出題がなかった。大問 III・IV の論述問題は史料・文章の読み取りが求められ、答案作成には時間と体力を要しただろう。論述問題は一部で書きにくい点もあるが主たる部分は基本事項で構成でき、また細かい知識や正確な年代把握などが求められる問題の出題は例年通りであったことから、総合的に見れば昨年度と同程度の難易度と言えるだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	日本の領土に関わる問題の歴史	近現代の対外関係に関して出題された。細かい知識を求める問題が多く見られ、受験生は苦戦したと思われる。(3)(4). 難。船の名前と思われるものに当たりをつければ、消去法で解答可能か。(7)(8). 難。千島列島の各島の位置を正確に覚えている受験生は少ないだろう。(17)(18). 58 のニクソンと迷う。(19)(20)・(21)(22). 日露戦争の緒戦は難。(25)(26). 歴史総合で扱われるドンズー(東遊)運動を想起できるか。(33)(34). 難。(39)(40). やや難。文章から日露戦争中のことだとわかるので、01・02 までは絞れるか。	難
II	近現代の日本の政党政治	主に近現代の政治が問われた。史料 A は黒田清隆首相の演説、史料 B は立憲政友会の設立趣旨、史料 C は自由党総裁の緒方竹虎の演説、史料 D はリクルート事件発覚後の政治改革に関するもの。(47)(48). 04 は日本国憲法の制定過程を想起したい。(49)(50). やや難。02・05 までは絞れるか。(61)(62). 史料 C が自由党関係だとわかるかどうか。(69)(70). やや難。05 と迷うだろうが、自公連立政権は 1999 年が最初。(79)(80). 歴史総合の教科書に記述が見られるものの、細かい。	やや難

設問別講評			
III	真言宗と朝廷の関係	真言宗の特徴と朝廷の関係について、5つの史料をもとに200字以内で論述する問題。基本的には教科書に記述されている説明を述べればよいが、字数がなかなか埋まらず、受験生は戸惑ったものと思われる。また、史料B・Cについてはどのように答案に反映するべきか迷っただろう。史料Bからは最澄と天台宗の存在を、史料Cからは空海が儒教・道教よりも仏教の方が優位であると考えていたことを読み取り、自然な形で答案に盛り込みたい。	標準
IV	享保期の物価と元文金銀	享保期における物価の状況と、旗本・御家人の経済的困窮の理由、それに対応するための元文金銀の発行について、2つの文章と1つの史料をもとに280字以内で論述する問題。当時「米価安の諸色高」であったこと、旗本・御家人が蔵米の売却で生計を立てていたことは基本事項としてしっかりと記述したい。一方で金銀相場については、文章や史料から金安・銀高の状態であったことはわかるものの、その改善による物価調整について論じるのは難しい。これは、銀高が江戸の物価高につながっていたことを想起できるかがポイントとなる。	やや難

合格のための学習法

慶應義塾大学法学部の日本史は、従来通り空欄補充問題や正誤文判定問題などの選択問題が出題される一方で、今年度は200字以上の論述問題が2題出題された。空欄補充問題は、選択肢を吟味すれば正解を見つけ出せることもある。正誤文判定問題は、標準的なものは確実に正解し、教科書の学習範囲で対応できない難しいものは消去法で答えを絞りたい。まずは教科書を熟読して、基本事項を単に暗記するのではなく、理解することが重要である。また、発展的な問題は、過去問で出題された用語を調べて用語集の説明までしっかりと読み込んでおくことで対応できる問題もあるので、早期の過去問研究を勧めたい。論述問題については、同じ慶應義塾大学の経済学部や文学部、もしくは国立大学の過去問を用いるなどして論述に慣れておくほか、史料の読み取りも重要なポイントとなるので史料対策にも取り組みたい。